

【研究主題】

夢中になって遊ぶ幼児の育成を目指して
～やってみよう! もっとやろう!～



はじめに

豊島区立池袋幼稚園 園長 岩本 卯月

幼児は夢中になって遊ぶことで、物との関わりや人との関わりを深め、自分の世界を広げていきます。本研究では、幼児がじっくりと取り組む様子や挑戦し工夫する様子、友達とイメージを共有する様子などを夢中になって遊ぶ姿、すなわち意欲的に遊びに取り組む姿と捉えています。幼児の意欲を支える援助について、1年目は人と関わる場面を、2年目は心と体を動かして遊ぶ場面を中心に探ってまいりました。また、幼児の姿の丁寧な読み取りを基本とし、日々の記録の改善、環境の再構成の実践を重ね、学びを深めることができました。

研究を進めるにあたりご指導賜りました共立女子大学教授 田代 幸代 先生 並びにご指導・ご支援賜りました、たくさんの先生方、そしてこのような機会をいただきました東京都教育委員会、豊島区教育委員会の皆様に心より感謝申し上げます。



令和7年10月31日(金)
豊島区立池袋幼稚園

研究の概要

主題設定の理由・研究動機

園の教育目標

- げんきな子
- やさしい子
- くふうする子

園の状況

- ◆外国籍を含む特別な配慮を要する幼児の増加
- ◆少人数学級では、教師がより丁寧な援助をすることができる一方で、友達関係が固定化しやすく、遊びの幅も広がりにくい傾向がある。
- ◆大明グラウンドを活用することで豊かな自然体験や運動機会を創出することができる。

幼児の実態

- ◆様々な環境に興味をもち、自ら関わって遊ぶ姿が見られる。
- ◆体を動かすことが好きな幼児が多い一方で、運動意欲に個人差が見られ、静的な遊びを好む幼児も増えている。
- ◆国籍の違いなどで、言葉でのやりとりが難しい幼児が多い。
- ◆一人遊びを楽しんだり、教師との関わりを強く求めたりする幼児が多い。

目指す幼児像

- ◆様々なことに興味をもち、自ら環境に関わり、自分のしたい遊びに意欲的に取り組む幼児。
- ◆教師や友達、学級と関わり、目的に向かって繰り返し取り組む幼児。
- ◆自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、体を動かし多様な動きを楽しむ幼児。

昨年度の研究を踏まえて

- 昨年度の研究から、幼児の姿を丁寧に読み取り、発達や時期に応じて援助や環境を再構成していくことで、夢中になって遊ぶ姿が引き出され、その中で幼児の人と関わる力が育まれていくことが分かった。
- 今年度は、夢中になって遊ぶことが多様な運動機会の創出にもつながることを踏まえ、幼稚園教育要領の領域「健康」に記載されている“意欲”に焦点を当て、幼児が夢中になって遊ぶための意欲を引き出す援助について研究を進めていく。

【研究主題】

夢中になって遊ぶ幼児の育成を目指して
～やってみよう！ もっとやろう！～

研究の仮説

昨年度に引き続き、幼児の姿から夢中になって遊んでいる要素を丁寧に読み取り、幼児を支える援助を行う。多様な動きを経験できる魅力的な環境の構成や、異学年・他校種の友達と一緒に遊ぶ機会の創設など、場を設定することで“やってみよう”“もっとやろう”という意欲が引き出されるのではないかと。

研究の手だて

①事例検討

幼児が心と体を十分に動かして楽しんでいる事例を「やってみよう(挑戦)」「もっとやろう(継続)」の2つの視点から読み取り、幼児の意欲が引き出された要因について、教師の援助と環境の工夫から整理してまとめる。

P3.4

②大型遊具の活用

幼児に経験させたい動きについて協議し、多様な動きを引き出せる活用方法について検討する。

P5.6

③なかよしタイムの実施

異学年合同で行う活動や、近隣保育所・小学校の幼児・児童との交流活動を計画し、実施する。

P7

本研究では、意欲には、幼児が環境に興味をもって自ら関わろうとする“やってみよう(挑戦)”と、遊ぶ中で幼児がと“もっとやろう”では意欲を引き出すために必要な援助が異なるのではないかと考え、幼児が心と体を十分に動

4歳児 I 期(4月~5月下旬)「むっくりくまさん」

期のねらい

- 安心して過ごせる居場所や自分のやりたいことを見つけて遊びだそうとする。
- 自分の好きな遊具や場など、興味をもったものに関わって遊ぶ楽しさを味わう。

幼児の姿(エピソード)

教師がくま(鬼)になりきり、むっくりくまさんをするこを学級全体で繰り返し楽しんできた。ある日、①教師が園庭の中央で、くまのお面を付けて眠っているふりをすると「くまがいる!」と、A児、B児、C児が気付き、教師の周りで手をつなぎ、むっくりくまさんの歌を歌いながら回り始める。②他の遊びをしていた幼児も、むっくりくまさんをしていことに気付き、参加し始める。教師は「なんだかお腹が空いてきたなあ、ガオー!」と言い、幼児を追いかける。

翌日、教師は、くまのお面をかけたラックを、テラスに用意した。A児は登園後の身支度を終えると、③そのラックを見つけ、「むっくりくまさんをやろう!」と教師や友達を誘い、遊び始める。④A児は「次は僕がくまをやりたい」と言い、お面をつける。A児は「お腹が空いてきたなあ、なんかいい匂いがするぞ」と言い、くまになりきりながら追いか

ける。逃げていた幼児たちが、サッカーゴールの中に入ると、⑤D児が「おうちの中にいれば安心だわ」と言う。教師が「よかった、これで安心だね」と言うと、追いかけてきたA児は、家には入らず「出てきたら食べちゃうぞ」と言ったり、「なんだか眠たくなってきたな」と言って寝たふりをしたりする。教師が「くまさんが寝ているよ!」と伝えると、逃げていた幼児たちは、A児の周りで手をつなぎ、歌を歌い始める。



むっくりくまさん~♪



食べちゃうぞー!

読み取り(幼児が楽しんでいること)

やってみよう

- ①むっくりくまさんがはじまることに期待が膨らみ、友達と手をつないだり、同じ歌を歌ったりすることを楽しんでいる。
- ②教師や友達がしていることに興味をもち、自分も一緒にやりたくなる。

もっとやろう

- ③前日の楽しかった経験を思い出し、教師や友達と一緒に、鬼遊びをしたいと思っている。
- ④鬼という特別な役割を魅力的に感じ、くまになりきって、教師や友達を追いかけることを楽しんでいる。
- ⑤むっくりくまさんのイメージをそれぞれがもち、楽しんでいる。

意欲が引き出された要因

- 学級全体でむっくりくまさんを経験したことで、遊びの流れや見通しがもてたこと。
- どの幼児も親しみやすく、覚えやすい、簡単なフレーズの歌であること。
- お面、歌、手をつなぐことなど、何をして遊んでいるのかが分かりやすいものや動きを取り入れたこと。
- 前日のことを思い出し、またやりたいという気持ちを引き出せるように、お面が掛かっているラックを幼児が見つけやすい場所に置いたこと。
- 教師がモデルとしてくまになりきったこと。
- 教師が幼児の遊びのイメージを支える言葉がけをして、幼児の思いに寄り添ったこと。

考察

- お面をきっかけとして、前日の楽しかった経験を思い出したことが、再度取り組もうとする意欲につながったと思われる。
- 4歳児の鬼遊びでは、お面などのイメージを支える教材を用意したり、教師が幼児の思いを丁寧に受け止め、共感したりすることで、自分のもつイメージが保障され、意欲をもって遊びに取り組む姿につながる。
- 友達と声をそろえられるような簡単なフレーズを歌うことや手をつないで輪になることで、教師や友達とのつながりを感じられるような機会を意図的に設定することが大切である。

自ら遊びを広げたり繰り返し楽しんだりする“もっとやろう(継続)”の2つの側面があると考えた。また、“やってみよう”かして楽しんでいる事例を2つの視点から検討し、意欲を引き出した教師の援助について考察した。

5歳児Ⅱ期(5月下旬～9月上旬)「プールごっこ」

期のねらい

- 遊びに必要なものを自分なりに考えたり、本物らしく作ろうとしたりするなど、集中して取り組む。
- 自分なりの目的をもち、試したり工夫したりする。

幼児の姿(エピソード)

E児が青いマットの上でなわ跳びをしながら、①「プールみたい」とつぶやき、さらにマットを持って来て場を広げる。プールに見立てた場ができると、E児は「浮き輪があったらいいのに」と言い、段ボールを持ってきて②「段ボールを切って、真ん中に丸い穴を開けて…」と言いながら浮き輪の形の線を描き、段ボールカッターで切る。穴が開くと、自分の体に通して、穴の大きさを調整したり、カラーガムテープで色を着けたりして浮き輪を完成させる。

F児とG児が仲間に入り、③3人で一緒にプールに入ると、マットの上でバタ足をしたり、平泳ぎの動きをしたりすることを楽しむ。片付け間際に、E児が「本物のプールにはウォータースライダーがあった」と教師に伝える。

翌日、教師が滑り台の縁に青いスズランテープを貼っておくと、④E児は興味をもたず、G児が「これ使いたい」と言って、教師と一緒に運び、ウォータースライダーを作る。すると、その様子を

見ていた、E児を含む数名の幼児が、G児に「入れて」と言って参加し、繰り返し滑る。④E児が「ウォータースライダーはトンネルになっているんだよ」と言い、教師が段ボールをいくつか提示すると、E児は滑り台の全面を覆えるものを選んで滑り台に被せ、ガムテープで固定する。すると、幼児たちは⑤仰向けに寝転がって滑ったり、うつ伏せになって水に飛び込むイメージで滑ったりと、様々な動きを楽しむようになる。また、⑥友達が滑る際に、カウントダウンをし、スズランテープで作ったポンポンを同時に流し、水の流れるイメージを楽しむ姿も見られる。



読み取り(幼児が楽しんでいること)

やってみよう

- ①青マットを水に見立て、大きく場を広げることで、プールを作ろうとしている。
- ③友達と場やイメージを共有しながら、自分なりに動くことを楽しんでいる。
- ④E児は、教師が用意した環境には興味をもたず、1から自分で作ることを楽しんでいる。一方で、他の幼児は、教師が用意した環境に関わって遊ぶことを楽しんでいる。

もっとやろう

- ②遊びに使いたいもののイメージを明確にもち、自分で考え、試行錯誤しながら作ることを楽しんでいる。
- ⑤狭いトンネルの中を、様々な体勢で滑ることを楽しんだり、友達の姿を見て自分の動きに取り入れたりしている。
- ⑥段ボールで覆われていることや、水に見立てたものがあることで、本物らしい動きを友達と楽しんでいる。

意欲が引き出された要因

- 水のイメージが連想され、もっと大きなプールにしたいという思いをもてるようなマットだったこと。
- プールや浮き輪など、周りの友達が魅力的に感じ、参加したいと思えるような、視覚的に分かりやすい環境があったこと。
- E児も意欲をもって取り組めるように、教師が素材の提示の仕方など、関わり方を変えたこと。
- 浮き輪のイメージが明確にあったことと、これまで様々な素材や道具を使ってきた経験があったこと。
- それまで出ていなかった動きが引き出されるような、体勢を変えなければ滑れない環境になったこと。
- 友達とイメージを共有できるような場や物があったこと。

考察

- 幼児は、環境の中からやってみたいと思うものを自ら選択し、関わりながら遊ぶことを楽しんでいる。行った場所や今まで使った物など、先行経験を遊びに結びつけながら広げていくことで、遊びを続けていく意欲につながっていくと思われる。
- 5歳児のこの時期は、幼児の「本物らしく作りたい」という思いを支えていく際に、幼児自身の力を読み取り、援助しすぎないように、様子を見守ることも必要である。
- 環境によって引き出される動きが変わることや、友達との関わりの中で動きが変化していくことを踏まえ、多様な動きにつながるように、環境を再構成していくことが大切である。

教師は、時期や発達に合わせて環境を構成し、実際の幼児の姿を読み取りながら環境を再構成するなど、遊びがさらに展開されるように、必要な人、場、ものなどの環境を用意している。また、その際には、幼児に経験させたいことを考えながら、戸外や室内の環境を設定している。そこで本研究では、経験させたい動きをもとに大型遊具を設計し、援助することで幼児の多様な動きが自然に引き出せるようにした。

また、大型遊具を使って遊んでいる幼児の姿を読み取り、教師が環境を再構成したり、活用方法を工夫したりすることで、幼児の夢中になって遊ぶ姿をさらに引き出していくことができると考え、大型遊具の新たな活用法について探っていった。

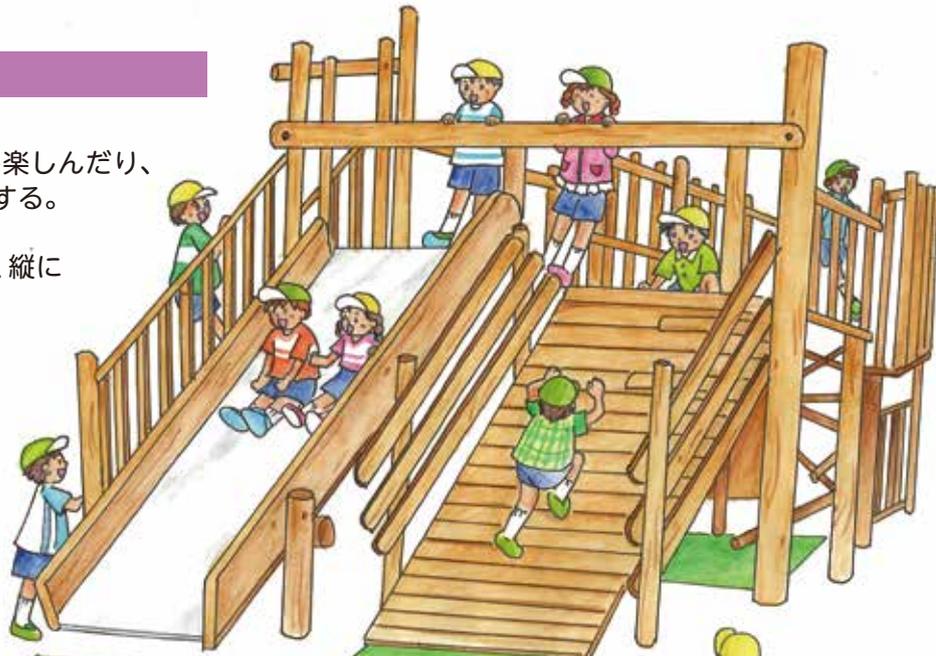
滑り台

●ねらい・意図

幅広の滑り台で一人で滑ることを繰り返し楽しんだり、友達と一緒に滑ることを楽しんだりする。

●活用方法・幼児の姿

友達と一緒に滑る際は、横並びになったり、縦につながったりして滑っていた。
水遊びの時期には、スズランテープ等を付け、ウォーターライダーに見立てられるようにした。



駆け上りスロープ

●ねらい・意図

滑り台とは反対に、下から駆け上れるようなスロープを設置した。年齢や習熟度に合わせて楽しめるように、捕まれる場所も取り付けた。

●活用方法・幼児の姿

手を使わずに登り切ったり、助走を長くとって思い切り駆け上ったりしていた。



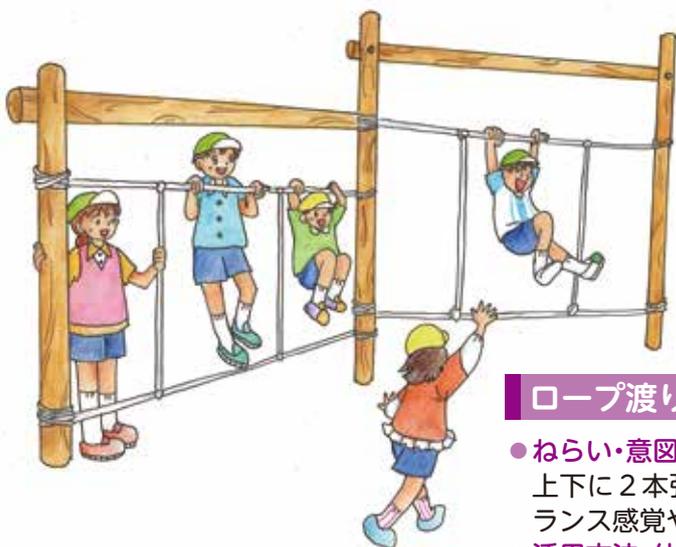
網状のはしご

●ねらい・意図

不安定な足場で、揺れる感覚を味わえるようにした。

●活用方法・幼児の姿

登るだけでなく、上から滑り降りることを楽しむ姿も見られた。



ロープ渡り

●ねらい・意図

上下に2本張ってあるロープを伝い、不安定な場所でバランス感覚や体幹を鍛えられるようにした。

●活用方法・幼児の姿

ロープに足を掛けてぶら下がったり、ロープの上で足抜き回りをしたりする姿が見られた。



【教師の援助】

- 認める(挑戦している姿・自分なりに工夫している姿など)
- 自分のタイミングで取り組み始める姿を待つ
- 遊びのイメージを支える教材を提示する
- モデルとなりそうな幼児の姿を周囲の幼児に知らせる
- 安心して遊べるように寄り添ったり見守ったりする など

登り棒

- **ねらい・意図**
手足の力を使って体を支え、登ることを楽しむ。
- **活用方法・幼児の姿**
両方の棒を使って登る姿が見られた。棒だけで登ることが難しい幼児は、柵に足を掛けるなど、工夫して登ろうとしていた。



ジャングルジム

- **ねらい・意図**
ジグザグ梯子型のジャングルジムは、不規則的に並んだ棒を使って、体と頭を使いながら登る楽しさを味わえるようにした。
- **活用方法・幼児の姿**
下から登るだけでなく、上を渡ったり、棒に座ったりすることも楽しんでいった。

見晴らし台

- **ねらい・意図**
ある程度高さのある見晴らし台があることで、登った達成感やスリルを味わえるようにした。
- **活用方法・幼児の姿**
幼稚園を見渡し、他の子の遊びが目に留まり、自分もやってみよう仲間に加わっていった。



うんてい

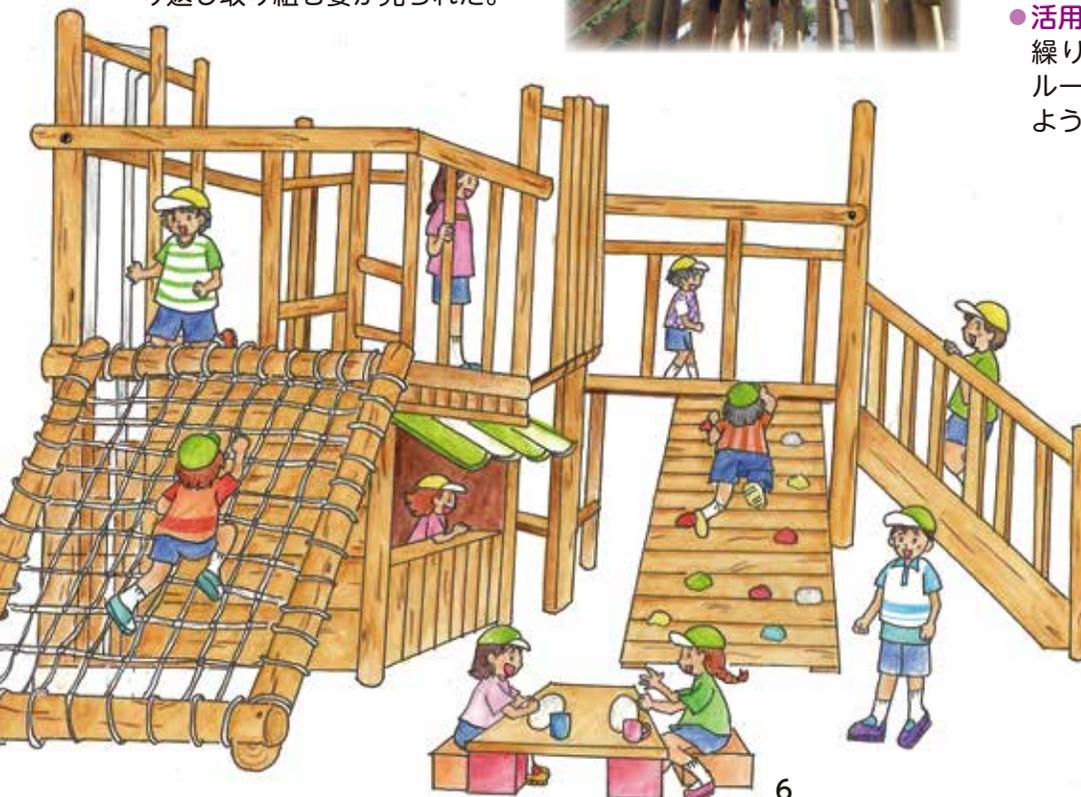
- **ねらい・意図**
あみだくじ型のうんていで、一方の動きだけでなく、横向きに動いたり、友達と一緒にぶら下がったりできるようにした。
- **活用方法・幼児の姿**
最後まで渡り切る、半分まで渡るなど自分なりに目標をもって繰り返し取り組む姿が見られた。

ロッククライミング

- **ねらい・意図**
難しいことに挑戦できるように、習熟度に合わせて、ストーンの数減らせるようにした。
- **活用方法・幼児の姿**
繰り返し登るうちに、早く登れるルートを見つけ、スムーズに登れるようになった。

階段

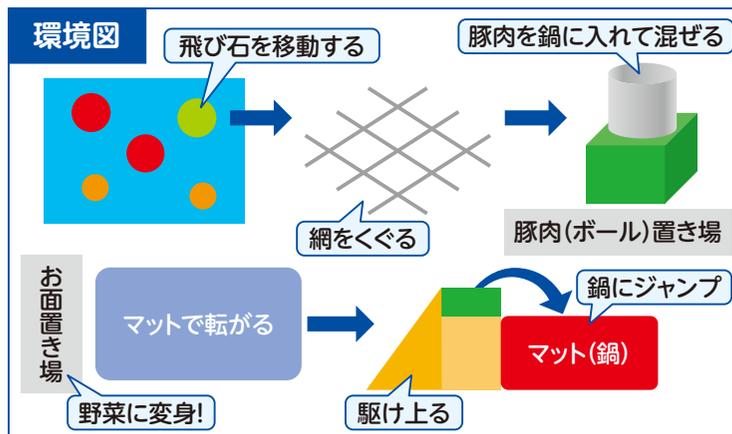
- **ねらい・意図**
入園前の幼児も簡単に上り下りでき、滑り台を楽しむことができるようにした。
- **活用方法・幼児の姿**
近隣の保育園の幼児や、園庭開放で地域の幼児が使っていて楽しんでいった。ロッククライミングや駆け上りが難しい幼児も、気軽に滑り台を楽しむことができた。



なかよしタイム (異年齢交流活動) の実施

大人数で多様な人と関わりながら遊ぶことの楽しさを感じられるように、異学年での交流活動や、近隣の保育所・小学校との交流活動の機会を「なかよしタイム」として、定期的に設けた。

幼児が現在楽しんでいることや時期に合った活動、経験させたいことなどを話し合い、計画を立てた。計画を立てる際には環境図を作成し、教師同士の思いを共通理解しながら進めた。



取組例「カレーアスレチック」

●ねらい

- 4歳児** みんなで一緒に動いたり遊んだりする中で、自分なりの動きをする楽しさや友達と一緒にいる嬉しさを味わう。
- 5歳児** 友達と共通のイメージをもち、自分たちで場を構成したり、ダイナミックな動きに挑戦したりすることを楽しむ。

●取組の様子



引き出された動き

- 転がる、跳び下りる、跳び移る、くぐる、混ぜるなど

引き出された幼児の姿

- 4歳児は、野菜になりきって転がったり這ったりなどの多様な動きを楽しむ姿が見られた。また、5歳児の姿を見て、ダイナミックな動きにも挑戦しようとする姿も見られた。
- 5歳児は、思い切り走ったり高くジャンプしたりと、ダイナミックに体を動かして遊ぶことを繰り返し楽しむ姿が見られた。また、自分たちでコースを考え、遊びの中で作り替えたり、巧技台などの重い物を協力して運んだりする姿が見られた。

成果と課題

成果

- 事例検討により、夢中になって遊び込む姿とは、幼児が教師の設定した環境から刺激を受けて取り組んだ遊びを繰り返したり、自身の先行経験と結び付けることで遊びを広げたりする姿だということが分かった。
- 大型遊具という環境を活用するために、幼児の遊びのイメージを探りながら活動を工夫することで、教師が幼児をより観察しようとする意識が高まった。幼児の興味をさらにかきたてるような活動の工夫を提案できるようになった。
- 「やってみよう」「もっとやろう」の視点から事例検討を重ねることで、幼児の姿の丁寧な読み取りや環境の再構成の大切さが改めて分かった。
- アンケートでは、令和6・7年度を通して「幼稚園で行う運動遊びの時間が楽しいと思う」幼児が100%であり、幼児が幼稚園での活動を楽しんでいたことが分かった。また、「運動やスポーツをするときは、1日にどのくらいの時間しますか」の項目では、「1時間以上」と回答した幼児が令和6年度6月の84%から令和7年度6月には93%になった。このことから幼稚園での遊びを通し、体を動かすことが楽しいと感じる幼児が増加したと考えられる。

課題

- 安全を確保しながら幼児のイメージを取り込み、遊び込む環境設定について、今後も研究を重ねていく。
- 静的な遊びを好む幼児に対し、今後、好きな遊びの時間に幼児の動的な遊びへの意欲が高まるよう、研究で探った援助の工夫を実践しながら保育を進めていく。

ご指導いただいた講師の先生

共立女子大学家政学部児童学科 教授	田代 幸代 様
豊島区教育委員会 教育長職務代理者	新井 裕 様
公益社団法人 全国幼児教育研究協会 理事長	福井 直美 様
元明治学院大学 特命教授	田代 恵美子 様
元豊島区立池袋幼稚園 園長	小林 幾子 様

研究に携わった教職員

〈令和7年度〉

園長	岩本 卯月	幼稚園運営補助員	外崎 恵子	特別支援補助	鈴木 牧子
教諭	山部 昌史	預かり保育指導員	新井 弘美	特別支援補助	岩本 絢子
教諭	仙田 結乃	特別支援指導員	田中 雅美	預かり保育補助	渡邊 清美
		校務支援員	佐々木 俊江	預かり保育補助	友川 由美
				スクールカウンセラー	斎藤 敢

〈令和5・6年度〉

園長職務代理者	山口 正男	経営支援員	飯島 光正	特別支援補助	矢島 つばめ
園長職務代理者	富本 保明	経営支援員	大竹 ヨシ子		
主任教諭	栗原 佳鈴				